

ANA は「東北 FLOWER JET」を就航させ、 これからも復興支援活動を行います。

～東日本大震災からこれまでの5年とこれからの5年について～

ANA は 2016 年度の東北支援に向けた新しい取り組みとして、「東北 FLOWER JET」を 5 月 14 日から就航いたします。ANA 福島空港の社員による自発的な提案*1 であり、この機体デザインは「震災を風化させない」「東北の“元気と感謝”を全国に届けたい」をコンセプトにしております。福島県ご出身の写真家である野口勝宏様*2 をはじめとした東北の皆様のご協力のもと、東北に咲く、“強く・美しく・まっすぐな”花々をボーイング 737-800 型機にあしらいました。この機体は 2020 年までの 5 年間、日本国内の空を運航します。



* 機体イメージ

さらに福島県出身「TOKYO No.1 SOUL SET」の渡辺俊美様*3 からのご賛同いただき、大空に飛ぶ花と復興への想いを表現した「東北 FLOWER JET オリジナルソング」を作詞・作曲いただきました(3月中旬発表)。

《これまでの5年間》

東日本大震災以降、ANAグループはこれまでの5年間、被災者の皆様に少しでも元気になっていただこうと、宮城県南三陸町の仮設住宅へのお湯の提供、福島空港周辺での「花を咲かそうプロジェクト」、仙台空港周辺での「海岸林再生プロジェクト」など、地域の方々との交流を大切にしながら、活動に参画してまいりました。また、救援救護者・救援物資の輸送協力など、航空事業を通じた支援も行いました。

《これからの5年間》

ANAグループはこれまでの取組(詳細:参考資料を参照)を継続し、2020年に向けたこれからの5年間、被災地の人口減少や震災の記憶の風化への対応、地域創生の加速など、その地域社会の課題を共に考え、地域が発展していけるようビジネス面での連携も強化して、魅力ある東北「まち・ひと・しごと」づくりを支援してまいります。

※1 ANA グループ社員による自発的提案活動(『ANAバーチャルハリウッド』)

新たな価値を創造し、大観衆を感動させる“ハリウッド”映画のように、お客様や社会に感動をお届けすることを目指す ANA グループ社員による自発的提案活動。2004 年にスタートし、2015 年度までに約 1,200 名の ANA グループ社員が参加し、様々な提案を実現している。

※2 野口 勝宏 様

1959 年福島県猪苗代町生まれの写真家。震災時に県内最大規模となった避難所での撮影をきっかけに、“福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい”と「福島の花」シリーズの制作を始める。第 35 回 Nikon Photo Contest 2014-2015 において日本人初のグランプリを受賞。全国各地での写真展のほか、病院や福祉施設などでも写真展示を行っている。

※3 渡辺 俊美 様

福島県出身。1990 年、「TOKYO No.1 SOUL SET」としてデビュー。ボーカル&ギタリスト。福島県で生まれ育ち、今は東京や横浜で暮らすミュージシャンとクリエイターの福島県人バンド、「猪苗代湖ズ」でも活動。2011 年に NHK 紅白歌合戦にも出場。

【ANA グループの復興支援活動に関する参考サイト】

・We Support TOHOKU

http://www.ana.co.jp/share/tohoku_support/

・ANA ホールディングス株式会社ホームページ

<http://www.anahd.co.jp/csr/community/tohoku.html>

・株式会社 ANA 総合研究所ホームページ

<http://www.ana-ri.co.jp/tiiki/category/support/>

参考資料(別紙)

その1 東北復興支援活動の具体例について

その2 東北 FLOWER JET 一花の詳細一

以上

《参考資料 その1》 東北復興支援活動の具体例について

1. 宮城県名取市 仙台空港周辺での取り組み

公益財団法人 OISCA の「海岸林再生プロジェクト 10 カ年計画」を 2011 年から支援し、宮城県名取市の海岸林で、これまでに 5 回のボランティア活動を実施しました。津波で流され潮風にさらされた硬い砂地に「防災林」を生まれ変わらせるため、地域の皆さんにクロマツなどの育苗を担っていただき、社員ボランティアが苗の成長を支援しています。このプロジェクトは、2020 年まで育苗・植栽を、2033 年まで育林を続け、“名取市民の森”を作っていきます。

2. 宮城県南三陸町での取り組み

2011 年東日本大震災が発生した翌月から 63 日間、航空機用の除雪車を使用してお湯を沸かし、のべ 2,237 名の被災者の方にお風呂を提供しました(『ANA こころの湯』)。その後、南三陸町の 10 ヘクタール(東京ドーム 2 個分)の森を『ANA こころの森』として借り受け、年に 2 回の社員ボランティアによる森の整備活動を行い、森から出る間伐材を活用してノベルティグッズやおもちゃやなどを現地で作成していただいています。今後も森林保全活動、および南三陸の雇用創出を支援していきます。

3. 福島空港周辺での取り組み

これまでに 5 回、毎年活動をしている『花を咲かそうプロジェクト』は、東日本大震災以降、福島空港から福島を元気にしたいという思いから、ANA グループの社員ボランティアと須賀川市、玉川村のボランティアの方、空港関係者など毎回のべ 120 名ほどが集まり、春に福島空港滑走路横の斜面にひまわりの苗の植栽と種蒔きを行い、夏に力強いひまわりを咲かせています。

4. ANAグループ社員を対象に『東北震災復興スタディーツアー』を開催

被災地に対する関心の薄れが懸念される中、被災地の真の姿を自らの目で確かめた上で、様々な形での東北復興支援策を考え行動に移していくことを目的として、2015 年度は 3 月実施予定を含め 3 回実施し、のべ 80 名の社員が福島を訪れ、「福島県の津波・原発被害の実態と課題、復興に向けた取り組み状況」を学びました。今後も継続してスタディーツアーを実施し、真の姿を知ることを通じて、復興を加速させるため次に何をすべきかを考え、それぞれの立場で出来ることから取り組んでいきます。

5. 福島県庁への ANA グループ社員の派遣

復興庁と連携し日本財団「WORK FOR 東北」を活用して、2015 年 4 月 1 日より ANA グループ社員(ANA 総合研究所の研究員)を福島県 商工労働部 観光交流局 観光交流課に国際観光推進員として派遣し、福島県の外国人観光客の誘客に関する業務に取り組んでいます。

6. “日本最大級の都市型マルシェ”である『太陽のマルシェ』に出店

2015 年度からの新しい取り組みとして、東京都中央区勝どきで開催された『太陽のマルシェ』に“福島県 & ANA”として出店しました。都内の福島県アンテナショップ「日本橋ふくしま館 MIDETTE」の特産品販売を、3 回のべ 42 名の社員ボランティアが制服を着用してサポート。今後も定期的実施していきます。

7. 『ANA航空教室』の開催

国内外で“次世代育成”を支援する活動を東北でも毎年行っています。2013 年度の福島の航空教室キャラバンでは合計 29 の小中学校を訪問しました。「ANA 航空教室」とは、運航乗務員(パイロット)や客室乗務員(キャビンアテンダント)など、ANA グループの仕事を紹介し体感してもらうことで、子供たちに「夢を持つこと」そして「夢に向かって、努力し続けることの大切さ」などを伝える活動です。子供たちが自ら未来を切り拓く力をつけ、挑戦することを今後も継続して応援していきます。



■撮影、デザインに使用した花の生息地・栽培地



- | | | | | | | | | |
|---|----------|-------|----|-------|-------|----|---------|-------|
| 1 | リュウキンカ | (福島県) | 7 | ヤブツバキ | (岩手県) | 13 | バラ | (青森県) |
| 2 | ハス | (福島県) | 8 | ヒマワリ | (福島県) | 14 | カーネーション | (宮城県) |
| 3 | アルストロメリア | (山形県) | 9 | ノコンギク | (福島県) | 15 | ダリア | (福島県) |
| 4 | キンギョソウ | (宮城県) | 10 | ユキヤナギ | (福島県) | 16 | ガーベラ | (宮城県) |
| 5 | オトメユリ | (福島県) | 11 | サギソウ | (福島県) | 17 | ハナカツミ | (福島県) |
| 6 | ヤマハギ | (福島県) | 12 | ストック | (秋田県) | | | |